『現代若者研究』メルマガ版

【第1回：大学生から社会人への意識変化】

2021年7月

『現代若者研究』メルマガ版の試み

ハイライフ研究所では昨年度まで、大学生～20代社会人を研究してきた。

公益財団法人ハイライフ研究所では、2019年度に大学生を対象に研究を行い、引き続き2020年度に20代社会人を対象に研究をおこなっています。その詳細は、2冊の報告書としてすでに公開しております。

しかし、私たちハイライフ研究所の若者に対する関心はまだまだ尽きることがありません。そこで、メルマガの形で研究を深めていくことにいたしました。メルマガ発信に際しては、以下を心がけてまいります。

そして、ハイライフ研究所ホームページにアーカイブしてまります。

メルマガ版での試み　その一

過去に発表した報告書で伝えきれていない部分を伝えていく。

メルマガ版での試み　その二

若者に関して、新たに沸き起こる興味を紐解いていく。

メルマガ版での試み　その三

読みやすく、楽しく、面白く、伝えていく。

なお、内容にご興味をお持ちになった方は、是非とも報告書本体もご参照ください。

※ハイライフ研究所ホームページにてご覧いただけます。

（下記報告書の表紙をクリックしていただくと、各報告書 pdf.にジャンプいたします）

第1回のテーマは、
大学生から社会人への意識変化

第1回は、2019年度におこなった「大学生対象の調査」と2020年度におこなった「20代社会人対象の調査」を材料として、大学生と20代社会人の比較分析をおこなってみる。

分析の視点は以下の2点に設定する。

【世代としての同質性】

20代社会人と大学生は
同世代として括ることができるかどうか？

【ライフステージによる意識変化】

大学生から社会人へという
ライフステージの変化にともなって
どのような意識変化が起きているか？

また、2つのCHAPTERで構成する。

CHAPTER　Ⅰ：　考え方や気質

CHAPTER　Ⅱ：　仕事意識

使用データ

現代若者研究報告書　大学生編

【定量調査】

■目的：大学生の全体像を捉える

■手法：調査会社のパネルを利用したインターネット調査

■調査対象者：大学1～4年生、かつ、18～24才

■エリア：全国

■獲得サンプル数：合計　2012S（男子学生1000S、女子学生1012S）

■実施時期：2019年7月22日～7月24日

■調査実施機関：株式会社マクロミル

現代若者研究報告書　社会人編

【定量調査】

■目的：20代社会人の全体像を捉える

■手法：調査会社のパネルを利用したインターネット調査

■エリア：全国

■対象者条件：

・22～29才男女　　・4年制大学もしくは大学院を卒業している

・正社員・正職員で勤務している　　・社会人歴1年～5年

・転職経験はない

■獲得サンプル数：合計　2060S（男性1030S、女性1030S）

■実査時期：2020年12月1日～12月4日

■調査実施機関：株式会社マクロミル

【定性調査】

■目的：生の声を聞くことで、20代社会人像を捉える手がかりを得る

■手法：オンラインを活用したグループインタビュー調査　　※1グループ　2時間程度

■対象者共通条件：

・23～29才男女　　・4年生大学、もしくは、大学院卒業者

・入社後2～6年程度、かつ、転職経験なし

■グループ数、及び、調査数：11グループ、合計32名（男性5グループ、女性6グループ）

※オンラインであることを鑑み、1グループを基本3名で設定

■実査時期：2020年8月28日～9月6日

■調査実施機関：統計調査センター株式会社

「自分に対する意識」において、20代社会人と大学生は同質。
承認欲求が強く、人から嫌われたくない。そして、自己肯定感が希薄。

「自分に対する意識」について、20代社会人と大学生を比較してみた。

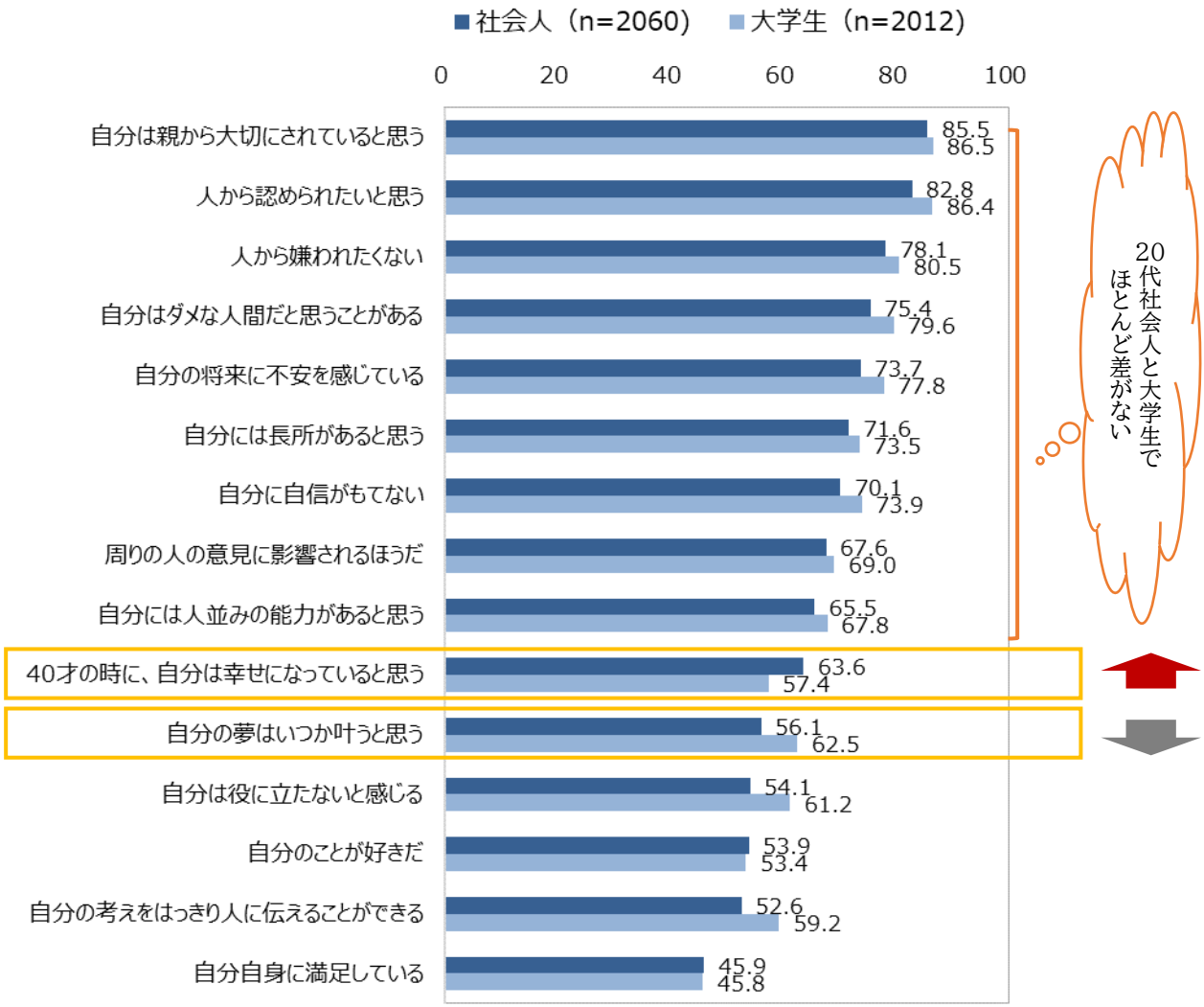
「自分は親から大切にされている思う」「人から認められたいと思う」「人から嫌われたくないと思う」など、上位項目を含め多くの項目で、20代社会人と大学生の差は5ポイント以内であり大きな差がない。

まずは、20代社会人、大学生ともに、親に大切に育てられていると自覚している。そして、他者からの承認欲求が強く、人から嫌われたくないという気質をもち合わせていることが確認できる。

また、20代社会人、大学生ともに、「自分自身に満足している」が提示した項目の中で最も低く、「自分はダメな人間だと思う」が上位に入ってきている。つまり、彼らは自分に自信がもてないという点でも共通となっている。

もちろん、20代社会人と大学生で変化の兆しはある。「40才の時に、自分は幸せになっていると思う」は20代社会人で高く、「自分の夢はいつか叶うと思う」は大学生より低くなっている。20代社会人は働き始めたことで、40才になったときの自分を具体的にイメージできるようになった一方で、漠然とした夢はもてなくなっているのではないだろうか。

Q．あなたご自身について、どのように感じているかお知らせください。（4段階で聴取）
※TOP2BOX（「あてはまる」「ややあてはまる」の合計スコア）



20代社会人、大学生ともに目指すのは、時間、気持ち、お金に“ゆとりのある暮らし”。だが、社会人になると人生に前向きな気持ちが薄れる。

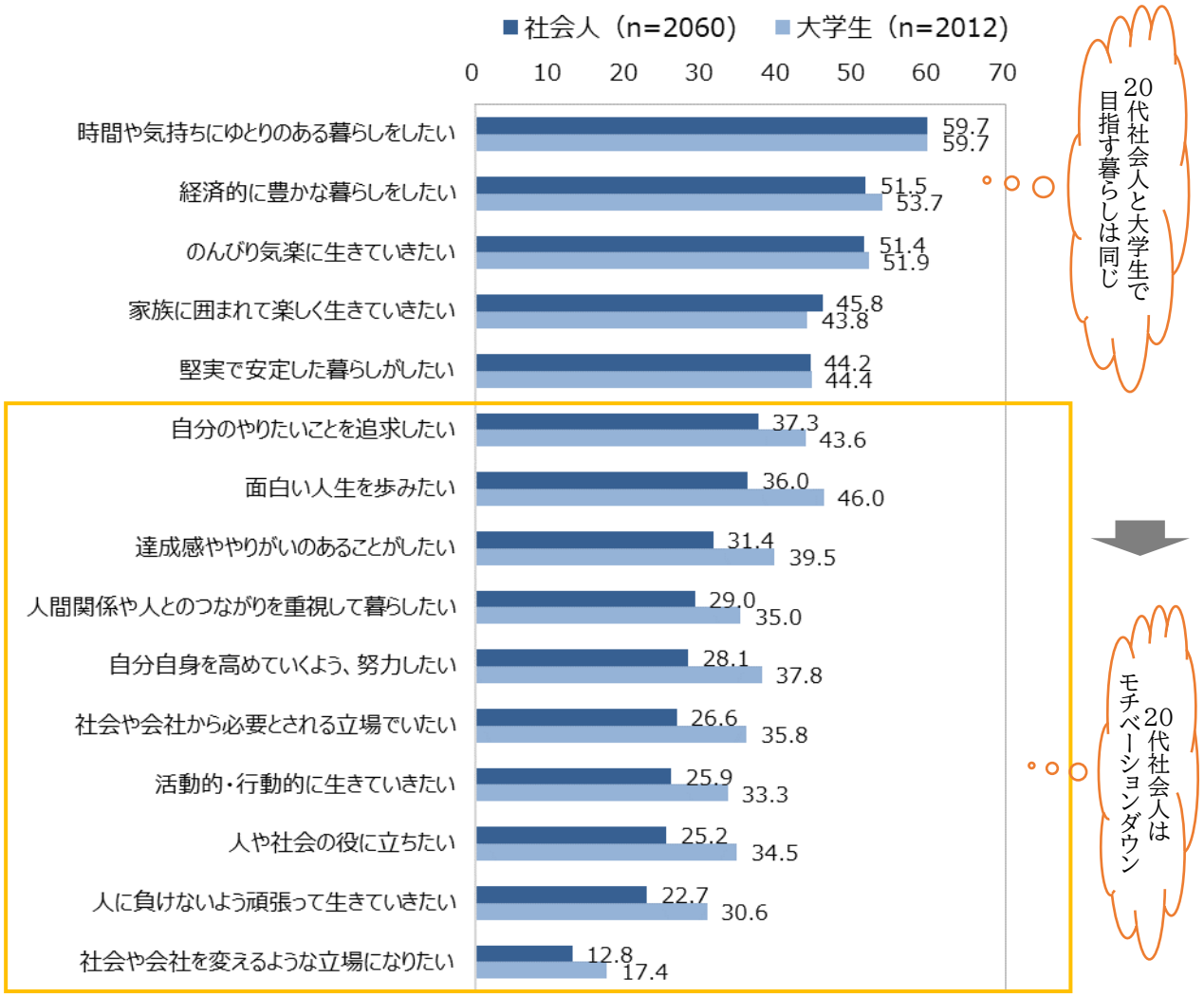
「生き方・暮らし方」について、20代社会人と大学生を比較してみた。

20代社会人、大学生ともに、「時間や気持ちにゆとりのある暮らしをしたい」「経済的に豊かな暮らしをしたい」「のんびり気楽に生きていきたい」が上位となっており、これらの項目で両者のスコアはほぼ差がない。目指す暮らしのイメージは、20代社会人と大学生で共通に“ゆったり”“豊かに”“のんびりと”であることが確認できる。

一方で、「自分のやりたいことを追求したい」「面白い人生を歩みたい」「達成感ややりがいのあることがしたい」などでは、大学生に比べ20代社会人でスコアが大きく下がっている。社会人になると、人生に対する前向きな気持ちやチャレンジしたり努力したりする姿勢が薄れていっていると読み取れる。

20代社会人と大学生の両者で、望む暮らしは同じであるものの、大学生から社会人になることで生き方に対する気持ちや姿勢は変わってくるようだ。

Q．生き方・暮らし方についてのお考えを知らせください。（４段階で聴取）
※TOPBOX（「あてはまる」のスコア）



20代社会人と大学生で想定する家族像は同様。
“家事分担して夫婦共働き”、“家族ファースト”と考えている。

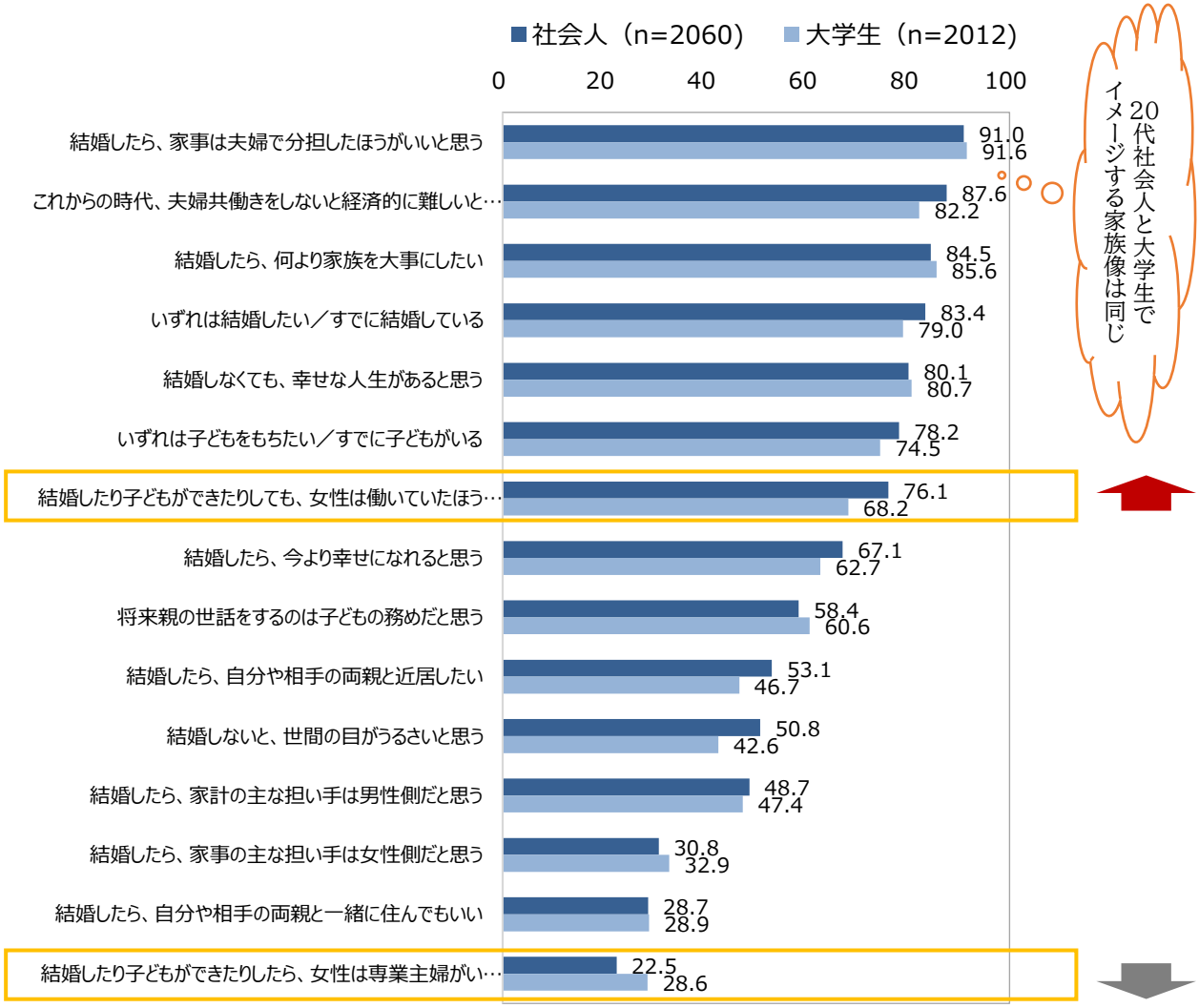
「将来の家族像や結婚後の生活イメージ」について、20代社会人と大学生を比較してみた。

20代社会人、大学生ともに「結婚したら、家事は夫婦で分担したほうがいいと思う」が最も高く、両者でほぼ同スコア。両者とも「これからの時代、夫婦共働きをしないと厳しい」「結婚したら、何より家族を大事にしたい」が上位に並んでいる。

20代社会人も大学生も、家事分担しながらの夫婦共働きは避けられないと考えている。そして、両者とも、夫婦共働きの生活の中で、何より家族優先のスタイルをとりたいと考えている。

また、「結婚したり子どもができたりしても、女性は働いていたほうがいいと思う」は20代社会人で若干スコアが高く、「結婚したり子どもができたりしたら、女性は専業主婦がいいと思う」で大学生のスコアを若干下回っている。社会人になって経済的に自立してみると、夫婦共働きでないと無理だと、より切実に感じるようになるとも言えそうだ。

Q．あなたご自身の将来の家族像や結婚後の生活イメージなどをお知らせください。（「はい」「いいえ」で聴取）
※「はい」のスコア



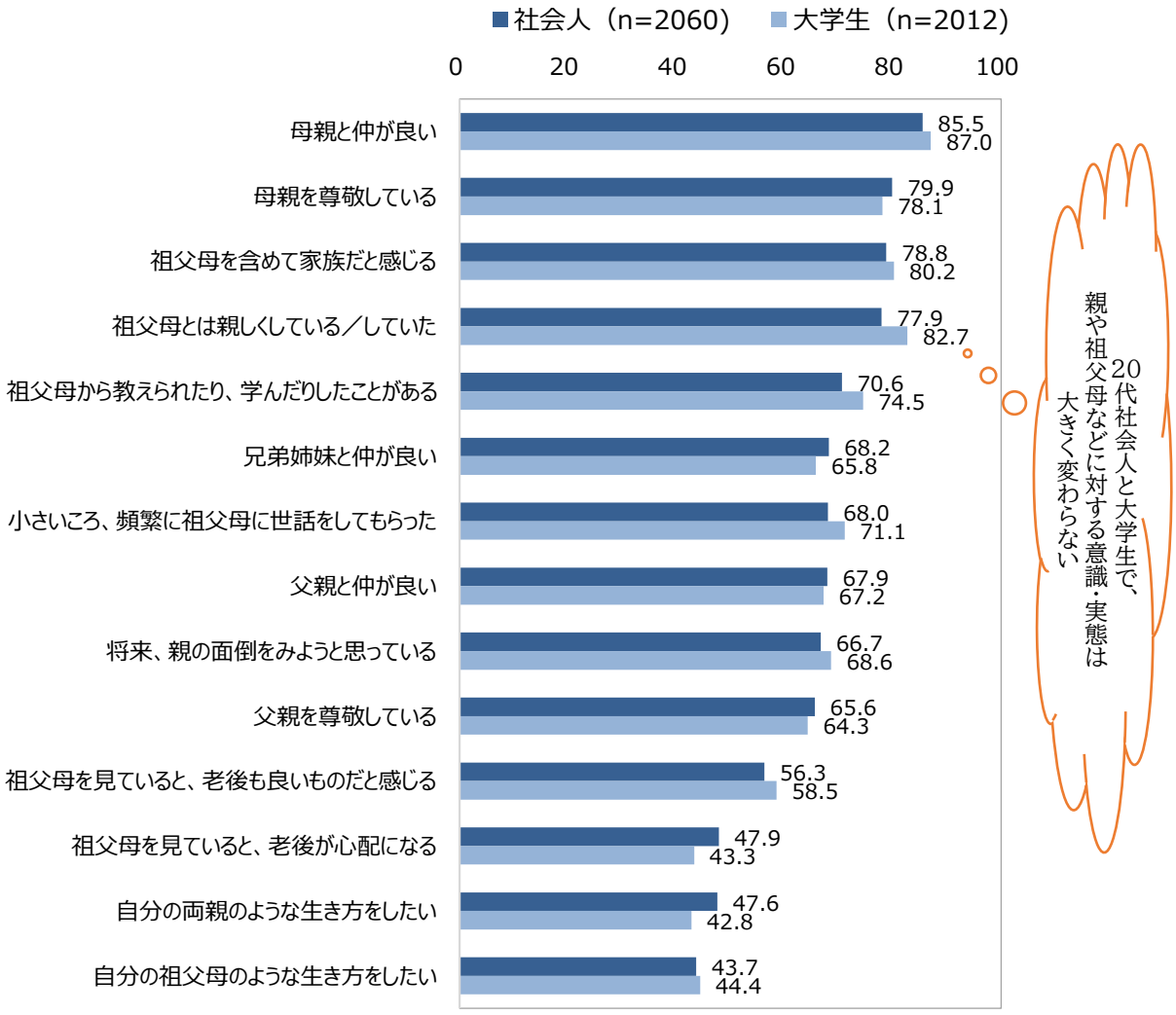
社会人になっても、親に対する意識は大きく変わらない。
相変わらず、母親との距離感が極めて近い。

「家族に対する意識・実態」について、20代社会人と大学生を比較してみた。

20代社会人、大学生で顕著な差が見られる項目はない。両者とも、「母親と仲が良い」が極めて高く、「母親を尊敬している」も高い。一方で、両者とも「父親と仲が良い」「父親を尊敬している」は母親に関するスコアに比べ大きく下回り、父親とはやや距離感がある。

社会人になって経済的に自立しても、母親とは密接であり、家族との関係性に変化は起こらないようだ。

Q．ご家族に対する意識・実態の中で、あなたにあてはまるものをお選びください。（「はい」「いいえ」で聴取）
※「はい」のスコア



20代社会人と大学生で、友人との付き合い方は大きく変わらない。友人に気を遣いながら快適な関係を保つ。

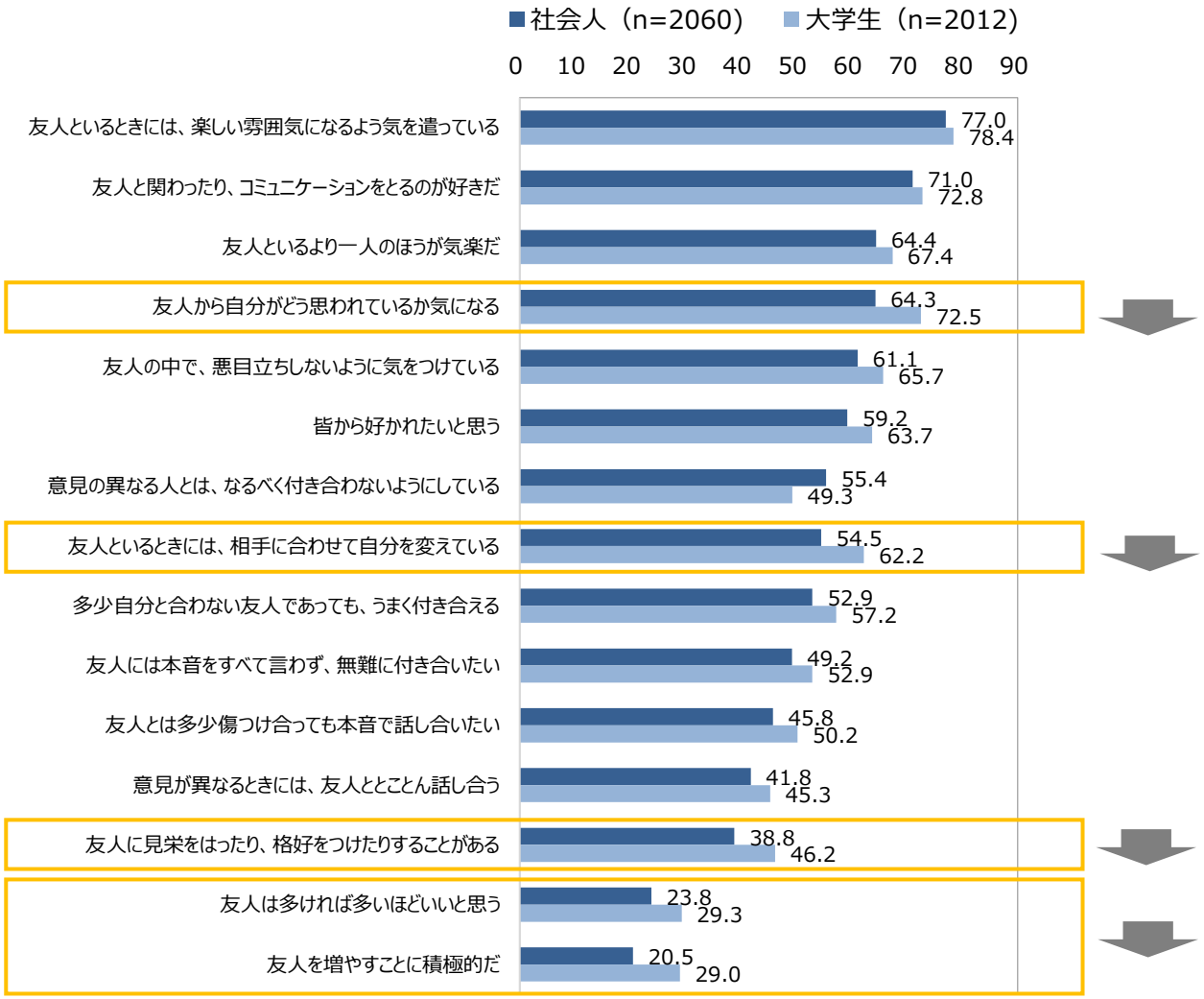
「友人との付き合い方に関する意識・行動」について、20代社会人と大学生を比較してみた。

20代社会人、大学生ともに「友人といる時は、楽しい雰囲気になるように気を遣っている」「友人と関わったり、コミュニケーションをとるのが好きだ」が上位となっている。両者で友人との付き合い方に関して基本的な態度は変わらない。

一方で、大学生に比べ20代社会人では、「友人から自分がどう思われているか気になる」「友人といるときには、相手に合わせて自分を変えている」「友人に見栄をはったり、恰好をつけたりすることがある」で低くなっている。20代社会人より大学生のほうが周りからの見え方を気にしている、言ってみれば、自意識が強いと言えそうだ。

また、スコアが最も低い「友人は多ければ多いほどいいと思う」「友人を増やすことに積極的だ」で、大学生に比べ20代社会人はさらに低まっている。社会人になると、小さなコミュニティしか求めない気持ちに拍車がかかるようだ。

Q．友人との付き合い方に関する意識・行動の中で、あなたにあてはまるものをお選びください。
（「はい」「いいえ」で聴取）
※「はい」のスコア



CHAPTER　Ⅰ：考え方や気質（まとめ）

20代社会人と大学生は
同世代として括ることができる

【自分に対する意識】
20代社会人、大学生ともに、承認欲求が強く、人から嫌われたくない。そして、自己肯定感が希薄。
【生き方・暮らし方】
20代社会人、大学生ともに、時間、気持ち、お金にゆとりのある暮らしを目指す。
【想定する家族像】
20代社会人、大学生ともに、家事分担して夫婦共働き、家族ファースト。
【親との関係】
20代社会人、大学生ともに、母親との距離感が極めて近い。
【友人との付き合い方】
友人に気を遣いながら快適な関係を保つ。

20代社会人と大学生で
ライフステージによる変化が起きる

【自分に対する意識】
20代社会人は、大学生に比べ、漠然とした夢がもてなくなってくる。
【生き方・暮らし方】
20代社会人は、大学生に比べ、人生に前向きな気持ちが薄れる。
【想定する家族像】
20代社会人は、大学生に比べ、夫婦共働きの必要性をより切実に感じるようになる。
【友人との付き合い方】
20代社会人は、大学生に比べ、小さなコミュニティしか求めない気持ちが強まる。

実際の就職活動に直面すると、「安定性」重視へと意識が変わる。
「収入」「ワークライフバランス」など条件にこだわる余裕がなくなる。

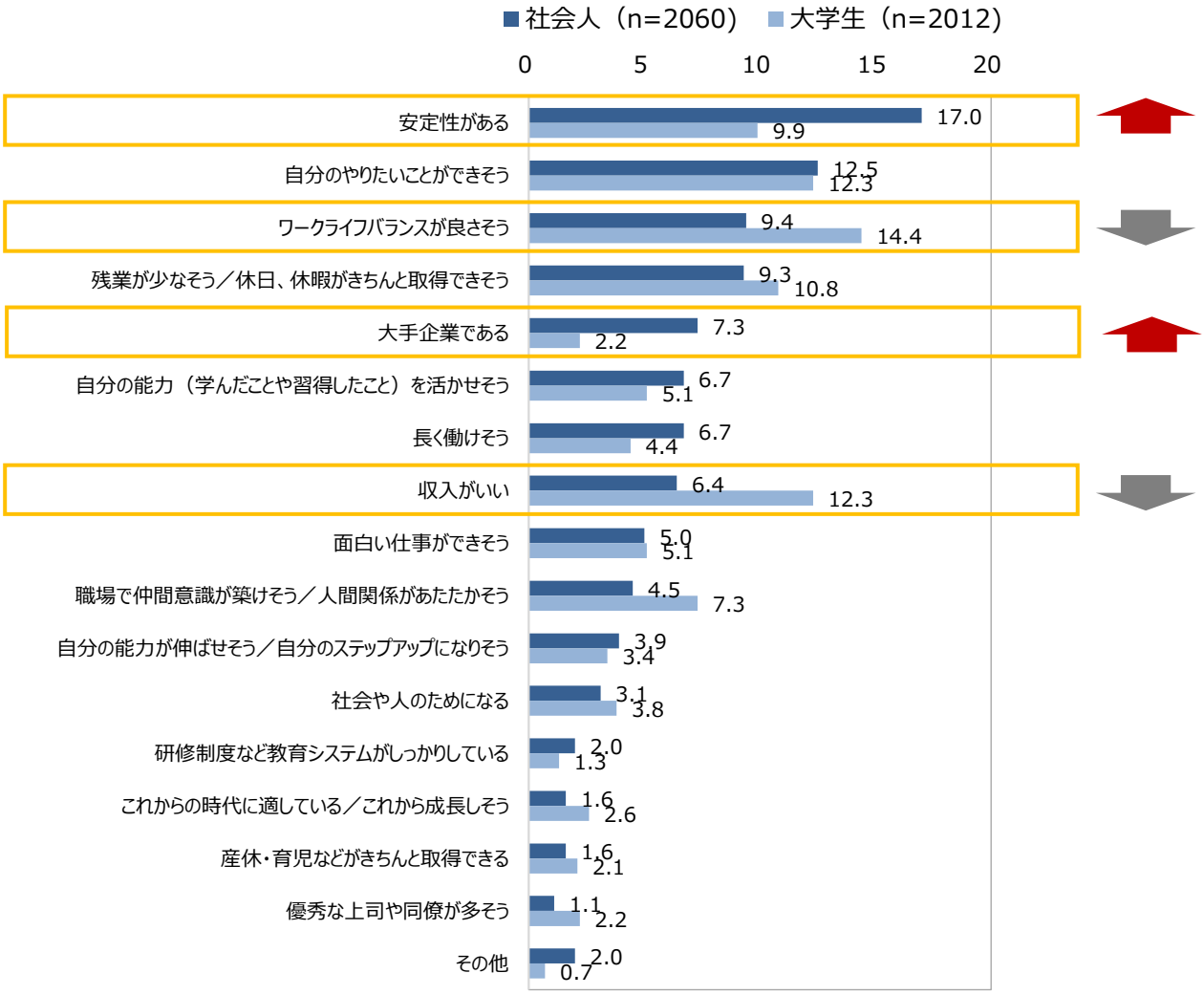
「就職する際の重視点」について、20代社会人と大学生を比較してみた。

「安定性がある」では、20代社会人が大学生を大きく上回っている。また、「大手企業である」でも、20代社会人が大学生を上回っている。逆に、「収入がいい」「ワークライフバランスが良さそう」では、20代社会人が大学生を大きく下回っている。

大学生の時には、「収入」「ワークライフバランス」など、よりよい条件で働くことを望むものの、実際の就職活動に直面すると、最終的には「安定性」「大手」重視に集約されていくと言えそうだ。つまり、条件の良さを並べる余裕がなくなり、つぶれない会社、なくならない仕事ということに条件が絞られてくるようだ。

就職活動にゆとりがある間はあれこれ理想的な条件を考えているが、就職活動を進めていくうちに現実を知り、最終的に守りたい条件は「安定性」「大手」だというふうに考えが変容していっている。

Q．就職する際に、どのようなことを重視して企業や仕事を選びましたか。最も重視したことをお選びください。
＊大学生調査では「就職活動するにあたって、企業や仕事を選ぶ際にどのようなことを重視しますか。」と聴取



20代社会人と大学生で、仕事に対する基本スタンスは変わらないが、仕事をし始めると前向きな気持ちが失せていく。

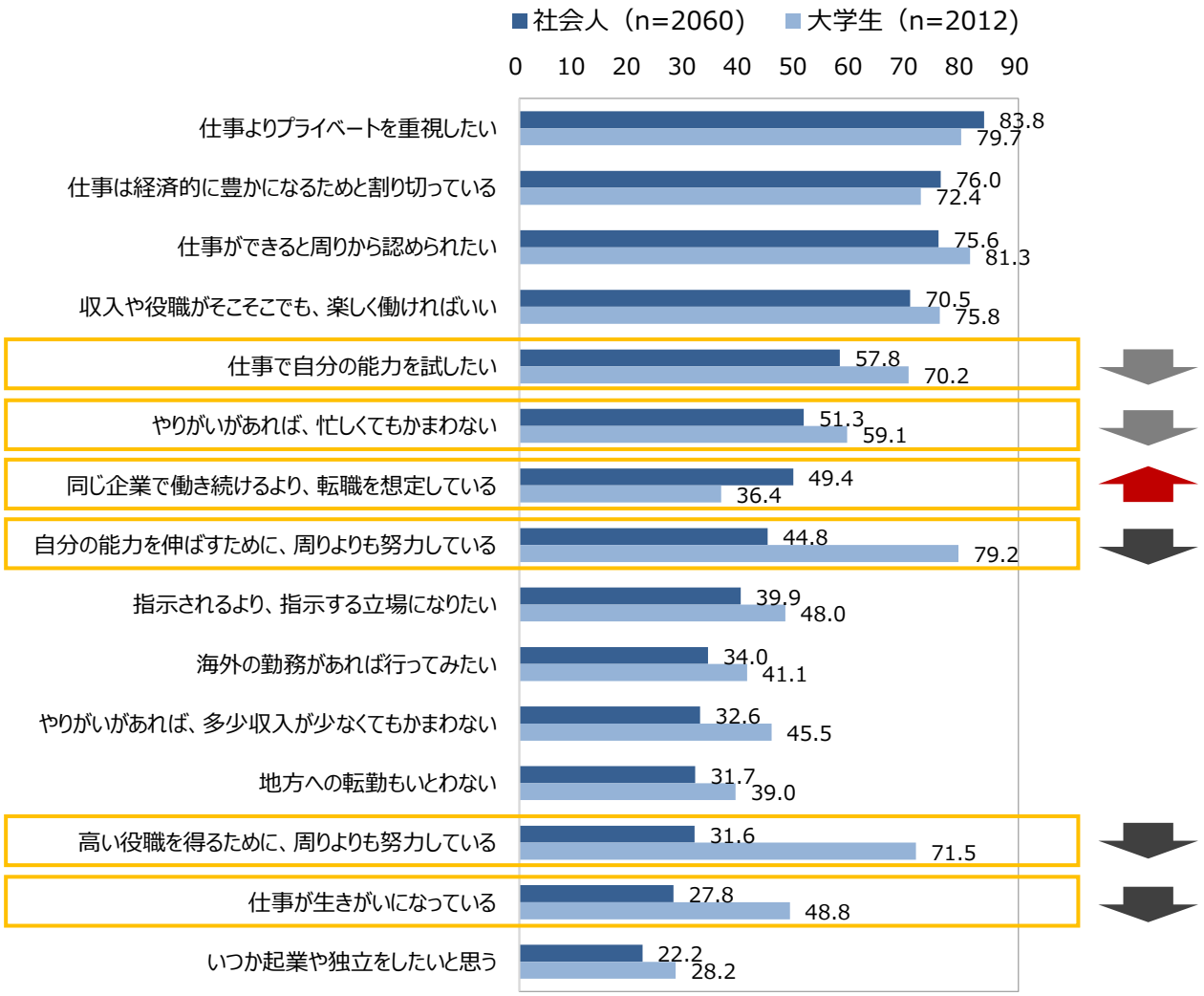
「仕事にのぞむ気持ち・態度」について、20代社会人と大学生を比較してみた。

「プライベート重視」「仕事を割り切る」「仕事の場での承認欲求」など上位項目では、20代社会人と大学生は大きく変わらない。プライベートを重視し、仕事を割り切り、仕事の場面で承認されたいというのが、彼ら共通の基本スタンスなのだ。

だが一方で、「自分の能力を伸ばすために、周りよりも努力している」（大学生調査では「～努力する」）、「高い役職を得るために、周りよりも努力している」（大学生調査では「～努力する」）、「仕事が生きがいになっている」（大学生調査では「仕事を生きがいにしたい」）では、20代社会人が大学生を大きく下回っている。その他、「仕事で自分の能力を試したい」「やりがいがあれば、忙しくてもかまわない」でも20代社会人が大学生を下回っている。また、「同じ企業で働き続けるより、転職を想定している」は20代社会人で大幅に高まっている。

社会人になって実際に仕事をし始めると、自分の能力を伸ばそう、高い役職を得よう、そのために努力しよう、仕事を生きがいにしようなど、前向きに取り組む気持ちが薄れ、一方で転職をリアルに考え始めるようだ。

Q．あなたは、どのような気持ちや態度で仕事にのぞんでいますか。（4段階で聴取）
※TOP2BOX（「あてはまる」「ややあてはまる」の合計スコア）
＊大学生調査では「社会人になったとしたら、どのような気持ちや態度で仕事にのぞみますか。」と聴取



社会人になってみると、こんなハズでは･･･と思うことも多々。
プラス方向にもマイナス方向にも、こんなハズではが起きる。

20代社会人を対象におこなったグループインタビュー調査から、仕事をし始めて起きた意識変容を拾ってみよう。

大学生の時には、仕事をするということがイメージできておらず、実際に仕事をしてみて漸くその厳しさに気付いている。就職活動は、企業や仕事選びが中心となっており、仕事をするということを真剣に考える機会には恵まれていない様子がうかがえる。

そして、就職して早々に“仕事をすること”という壁にぶつかり、どうするか思い悩んでいる。ここをどう乗り越えるかということが第一関門となっている。

〈具体的発言例〉

- 就活のときはまわりがすごく力を入れている人ばかりだった。だから自分もそういう感じになっていた。でも就活以外では自分が好きなことをしていた。夜、美術館に行ってコーヒーを飲んで帰ってくるなど、ゆるく暮らしていた。**そのときは（就活時は）働くということがどういうことかわからなかった。**（女性28才、地方出身＆首都圏在住）
- **正直覚悟が足りなかったと思う。**窓口志望ではなく事務がやりたかった。一般企業の事務とは違うので、そのへんは考えが足りなかった、安易な感じで学校の推薦でやっちゃったので。（女性26才、首都圏出身＆在住）

一方で、実際に仕事をし始めてみると、自分が予想以上に仕事に頑張れるということを知ったり、仕事にやりがいを感じ始めたりしている。仕事と向き合うことで、これまでになかった自分が引き出されて成長していっていることがうかがえる。

〈具体的発言例〉

- **学生時代にはそんなに働くことになるとは予想していなかった。**ブラック企業は嫌だなと思っていた。就活のときも「企業名　ブラック」で検索をして社員の意見を見たりしていた。労働時間は長いが、会社の雰囲気がいいので一緒に頑張ろうというチームになっている。嫌な人がいないのでストレスがない。（男性29才、首都圏出身＆在住Ｇ）
- **やりがい。達成感を得ながら仕事がしたい**ということがある。営業で回っていると、自社の取り扱っている商品とかサービスで困っている場面を助けることができた時に、お客様に感謝される。取引の継続にもつながるので、そういう成功経験が働いて行く上で大事。（男性25才、地方出身＆在住Ｇ）

また、やる気をもって仕事にのぞむつもりだったものの、思ったような仕事に出会えていない場合は、物足りないと感じる日々を送っている。こういった環境下にあって、どのように切り抜け進んでいくかは、20代社会人にとって大きな試練となっている。

〈具体的発言例〉

- ＯＬに凄い憧れがあって、名前が知れた会社で事務をするっていうので入ったけど、いざ入ってみたら、**申し分ないのらりくらりの生活で、物足りない。**（女性24才、地方出身＆在住Ｇ）
- キラキラじゃないけど、自分が頑張ってると思える仕事をするつもりだった。**努力する自分がいると思っていた。全然努力していない。**営業は一緒だけど、前から移動して取引先が変わったので、３年目、去年位に思った。入ってすぐはちょっと色々あってそこそこ大きいところを持っていたから、忙しくてやりがいがあったけど、担当が変わって地味な仕事で、つまらないなと思っちゃって。（女性25才、首都圏出身＆在住G）

学生から社会人へとライフステージが変わることにともなって起きる環境の変化は大きい。仕事の場に実際に身を置くことで戸惑いが起きるのは当然のことだろう。前ページで見た通り、マイナス方向への意識変化のほうが大きいのは、残念な事実だ。しかし、仕事への意識変化はマイナス方向ばかりでなく、プラス方向にも起きているのも事実だ。

CHAPTER Ⅱ： 仕事意識（まとめ）

大学生から20代社会人と
仕事に対する基本スタンスは変わらない

【仕事に対する意識】
20代社会人、大学生ともに、

仕事よりプライベートを重視し、経済的な目的として仕事を割り切る。

また、仕事ができると認められたいし、役職や収入がそこそこでも楽しく働ければいい と思っている。

大学生から20代社会人になると、
仕事に対して前向きな気持ちが薄れていっている

【仕事や会社を選ぶ際の重視点】
就活の最終段階では、重視点が“安定性”に絞られていく。

【仕事に対する意識】
大学生の時には、それなりに、努力したり、チャンレジしたりする気持ちがある。
社会人になった後には、こうした頑張ろうという気持ちが遍く落ち込んでいる。

【仕事をし始めての意識変容】
実際に仕事をし始めて、学生時代に抱いていたイメージと現実のギャップを感じている。
20代社会人は仕事に適応していくプロセスにいるといえよう。
今のところ、もちろん気持ちが上向きになる経験もあるが、気落ちする経験のほうが多いようだ。

ちょっと考察・・・

20代社会人と大学生で共通の
若者としての同世代性を

“気持ちの熱さ”より、『心地よさ重視』で括ってみる

〈考え方や気質〉心地よい環境、心地よい生き方、心地よい人間関係
人からちゃんと認めてもらって、嫌われずにいたい
時間、気持ち、お金にゆとりをもってのんびり暮らしたい
楽しい雰囲気になるようなに友人に気を遣う。そんな付き合い方が好き

〈仕事に対する意識〉心地よさを重視して仕事をする
仕事よりプライベートを重視し、仕事を割り切る
役職や収入がそこそこでも楽しく働ければいい

今後、彼らが中心世代となっていく仕事の場面では
心地よさを重視して働くことが当たり前になる！

やみくもに長時間
働いたりしない

プライベートな生活を
大切にする

役職や収入より
楽しく働く

仕事に適応していくプロセスにある20代社会人は、前向きさが薄れる傾向。
だが、心地よさに紐づくきっかけさえあれば、前向きになる。
その兆しはグループインタビュー調査で見出せる。

会社の雰囲気がいいので
長時間でも頑張れる

やりがいや達成感を
感じながら、仕事をしたい

そのきっかけを作るのが、年長者たちの役割ともいえよう。